

AMCoR

Asahikawa Medical College Repository <http://amcor.asahikawa-med.ac.jp/>

こころのりんしょうa・la・carte (2008.03) 27巻1号:12.

【子どものチックとこだわり】子どもにチックが起こるのは、育て方がいけなかったのでしょうか?

沖 潤一

Q

4

子どもにチックが起こるのは、育て方がいけなかったのでしょうか？

A. チックは、生まれつきチックを起こしやすい脳の体質（神経伝達物質のアンバランス）によって生じるものであり、決して育て方の問題で出現するものではありません。

チックを起こしやすい脳の体質は、女性に発現した場合、神経質で完璧主義的な母親になる可能性があります。このため、完璧主義的な育て方によって、その子どもがチックになったと誤解されていたのでしょうか。確かに、チックが出始めるときに、学校で嫌なことがあったり、親に叱られたりといった誘因があった子どもがいます。しかし、チック全体の1/3に過ぎず、あくまでも原因ではなく誘因（きっかけ）です。残りの2/3では、特に誘因がなくチックが出現しています。育て方が悪くてチックになったということはありません。

ただ、親が潔癖で、完璧主義的であればあるほど、子どものチックを早くなくそうとあせり、頭では解っているのに、叱責や干渉が多くなってしまいます。そうすると、子どものチックは増えてしまいがちです。潔癖な親に、「(子どものチックが頻繁になっても) 気にしないように」「チックがあっても心配ない」とアドバイスしても、効果が上がらないことがあります。必死で注意しないように、子どものチックを無視するように努力する親の姿が目につかびます。親が「子どものチックを注意しないように気をつけているのに、一向に良くならない」という不満を抱えながら、がまんしているのは、非常に不自然なものです。子どもは親が考えている以上に、「自分のチックのことで親が悩んでいる。親のためにもチックを減らさなくてはならない」と敏感に感じています。私は、子ども本人そして親に「チックはあっても構わない」と話し、親が開き直って子どもと接すること

ができるようにアドバイスしています。

逆に、親や担任教師がチックに対してあまりにも無理解であると、理不尽な叱責や同年齢の子からのからかいを助長してチックを悪化させるといった悪循環に陥ることがあります。育て方自体がチックの原因ではありませんが、極端に過干渉だったり無理解だったりするのはなく、適度なチックに対する理解を持ち、子どもの自尊心を高める方向で子育てを楽しみましょう。

参考文献

アンバー・キャロル, メアリー・ロバートソン (高木道人訳): トウレット症候群の子どもの理解とケア: 教師と親のためのガイド. 明石書店, 東京, 2007.

星加明德: チックのあるお子さんのお母さんへ. 厚生科学研究 (子ども家庭総合研究事業) 心身症, 神経症等の実態把握および対策に関する研究班 (主任: 奥野晃正), 心身症, 神経症等の疾患, 状態像に対する診断基準, 対応マニュアル, p.2-10, 2001.

沖 潤一: チック障害, トウレット障害. 小児内科, 36: 935-939, 2004.

(沖 潤一/旭川厚生病院)